

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念のほか、年度部門目標を掲げ取り組んでいる</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>いつもスタッフが目につくような場所に掲げている。また、名札に挟んでいる理念でも確認でき、業務の中で意識して取り組む事が出来るようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の中で、家族や地域の方々と共に運営理念を実践できるように取り組んでいる。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地域への行事へは、町の広報や案内状等で確認し出来るだけ参加をしている。また、週一回の買い物で地域の方々とも触れ合っている</p>	<p>取り組みの事実に加え、畑作業により収穫できた野菜等を御近所におすそ分けし交流していく予定である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		9月の内部研修にて実施する予定である。
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		7月と3月の内部研修にて実施する予定である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期の異動の時期であっても、なるべくグループホームでの異動は最小限で行っている。また、職員が代わる場合には、周りの職員と協力しながら、利用者に寄り添う様に援助を行い利用者が不安にならないように努めている</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外での研修へ積極的に参加させ、質の向上に努めている。また、研修で得た知識を内部研修で参加していない職員へも伝達し全体でのレベルアップに努めている</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部の研修には積極的に参加させ、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく様に努めている</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は年度目標に魅力ある職場づくりを掲げ、良好な職場環境づくりに取り組んでいる</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員の勤務状況や実績を把握し、職員個々の評価に反映させている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居希望があった日より、本人や家族の困っている事や不安等によく耳を傾け、面接等の機会を持ち積極的に対応している。また、入居前に可能であれば本人や家族に現状のグループホームの姿をみて頂き、安心して生活できる事を確認して頂いている</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>同じ建物内及び敷地内にある生活支援ハウスや老健施設との連携を図り、本人や家族にとってどのサービスが適切なのかを検討している</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族と相談しながら、入居前に可能であればグループホームを見学して頂き、他の入居者や職員と交流できる機会を設けている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>出来る限り、入居者と一緒に過ごし、寄り添う事により、本人の悩みや困っている事への対応、喜び等の共感をし、共に笑ったり、悩んだりしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた家族にはその都度近況を伝えている。また、家族には月1回発行しているグループホームだよりで近況を報告し、入居者と家族の関係が維持できるように、家族へ行事等への参加を案内している		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居の際に、現在の本人と家族の状況把握に努め、介護疲れ等が見られている場合は、サービスを利用する事が本人と家族の関係維持に繋がる場合もある旨を説明している。また、出来るだけ入居者と関わる機会を持って頂けるよう案内している		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべくなじみの方の面会をお願いし、面会時にはさりげなく話を出来るような空間をつくっている。また、なじみの場についても本人の意思を汲み、出掛けるなどの対応をしている		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の会話等から利用者同士の関係を把握し、日常生活の中や外出時等に利用者同士が協力し支え合える機会が出来るよう努めている		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームでの生活が終了している方でも、面会などが可能な方は、面会に行くなどの対応を実施している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話等を通して思いや意向の把握に努め、困難な場合は過去の生活歴等を参考にし意向の把握に努めている</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時、または随時本人・家族・関係者から情報聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めている</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日のケアや毎月のモニタリングにより、本人の状態把握に努めている。また、6ヵ月毎のケアプラン見直し時に担当者会議を開催し総合的に把握するように努めている</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成時には、可能な限り本人・家族の意向を確認し、またカンファレンスを行い、課題の解決に向けて意見交換をしあった上で、介護計画を作成している</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間満了時、または、本人に状態変化が生じた場合等には、上記手順により介護計画の見直しを行っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>観察記録には、日々介護計画に即した内容や、本人の心身の状態が記入されている。またカンファレンスでは評価を持ち寄り、介護計画の見直しを行っている</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>介護予防やショートステイが利用できるように体制を整えている</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>平成19年7月「運営推進会議」を発足。ボランティアの受け入れや、小学校への雑巾の寄付、避難訓練時の消防の立会等を行っている</p>		
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>グループホームでの生活が困難になった入居者には、本人や家族に対して他のサービス利用について情報提供を行っている</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在のところ必要性がないため、行われていないが、権利擁護や成年後見制度について希望や必要性があれば対応できるよう内部研修で周知を図っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が連れていけない場合はこちらで対応している。また、家族の要望があれば送迎のみ対応している。かかりつけ医もなるべく家にいた時と同じ所に連れて行くようにしている		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニック科へ通院している入居者に関しては、受診時に職員が医師へ状況を報告したり相談を行っている		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の事業所の看護スタッフへ連絡し、状態を確認してもらったり、相談が出来る体制を確保している		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した場合、グループホームでの状況を伝えている。また、面会に行き入院中の状態を確認したり、病院の関係者から状態を確認し、情報交換に努めている		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、今後の援助について本人・家族・かかりつけ医・職員間で検討したうえで方針を決定している		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した入居者のかかりつけ医に日常の援助を行う際の注意点等を確認し、グループホームで出来る事を検討したうえで援助を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時は利用時連絡箋を書き渡すなど行ない、家族やケア関係者に状態を報告し住み替えによるダメージ低減に努めている		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーや誇りを損ねる事の無い様、職員同士、声を掛けあい、防止に努めている。また、個人情報はカルテ等で管理し、個人情報同意書に記載された使用用途以外は使用を禁止している		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の状態に合わせ、理解しやすい言葉や説明を心掛け、本人が自己決定できる様に努めている		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を最優先に行うよう努めている。しかし、業務の都合等で職員の都合が優先になっている場合もある。		入居者の目線での業務改善を都度検討している
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人によってはお化粧をしている方や、入居前から通っていた美容室で散髪される人もいる。また、夏祭りには本人持ちの浴衣を着て、お化粧をして参加する事を楽しみとしている為、継続していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備へは積極的に声をかけ参加して頂いている。また個々人の好き嫌い、禁食に合わせて対応している。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	外出の際は本人のおこづかいを持ち、購入したい物がある時は対応出来るようにしている。法人の規則により、敷地内での飲酒及び喫煙は禁止となっている		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導、声掛け等が必要な方へはその方の排泄パターンに合わせて出来る限りトイレで排泄が出来るように援助している。また、誘導する際は排泄介助と周りに気付かせないよう配慮している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員配置の関係もあり、時間帯は11時から17時までの範囲であるが、曜日は決められておらず希望時にはいつでも入浴が可能である。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者が自分の意思で、休息をとれるよう支援している。また、自分で判断できない利用者であっても、職員が状況を観察し、適時休息を取って頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみごと、得意なことを把握し、調理や畑作業、裁縫、踊り等を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、小銭程度は本人が管理している方もおられる。外出時の買い物は一人ひとりの力量に応じ、職員と一緒にこなしている		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や地域のイベントなどへ車で出掛けたり、近所を散歩したりと気分転換を図っている		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	町内外へ出掛けられるように外出行事として計画し、実施に努めている。また、家族にも一緒に出掛けて頂けるよう案内している		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族に電話等をしたいと要望があった場合には、適宜対応している		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に面会に来て頂けるよう、家族や面会者に声がけをしている。また、面会時にはゆっくり話が出来よう、場所の提供もしている		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職員全体に周知徹底させている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホーム玄関の鍵は電気錠で、常時解錠は構造的に電気錠にトラブルが発生する可能性が高くなるとの事で常時解錠は行っていない		入居者の希望を確認しながら、出来るだけ一緒に外に出るように努めている
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい場所に居て、入居者の行動の把握に努めている。(入居者の側での記録書き・入居者の様子が分かる調理・配膳場所等)必ず職員一人は入居者のそばに居ようとしている		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品はステーションや鍵のかかる場所で保管、管理している。希望があれば手渡し、見守りしながら使用して頂いた後で再度預かっている		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりのADLを職員全員が理解して、変化があった場合も情報共有し、その日の状態に応じた、見守り、介助等を行い、事故防止に努めている		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルがあり、それに従って対応できるように全職員が目を通している。定期的な訓練は実施していない		10月の内部研修で実施予定である。今後も毎年計画的に実施していく予定である
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同一敷地内に、老健施設があり避難訓練は合同で実施しており協力体制を確保している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会にいらした時に、入居者の現在の状態やリスクを説明し、身体拘束等の無い支援の方法を話し合い実施している。遠方で来られない家族には、グループホーム便りや電話連絡で伝え援助内容を確認している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各入居者の病名を職員が把握し、毎日のバイタル測定等により異変の早期発見に努めている。また、体調の変化や異変は申し送り、日誌等で直ちに共有し、受診の必要性を判断し病院受診を行っている		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬の処方箋が閉じてあり、職員がいつでも見る事は出来、服薬時には一人ひとりにその都度手渡しし、服薬を確認している		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録により便の回数の把握をしている。また、食物繊維を多く含む食事や飲み物の提供や水分補給、体操、日常の家事、散歩等を実施し便秘予防に取り組んでいる		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの声がけと確認、出来ない部分の援助等を行っている		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜嫌い、肉嫌い等調理法により、食べやすいように工夫し、大きさ等も一人ひとりに合わせて提供している。施設の栄養士が献立を作成し栄養のバランスを確保している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが作成されており、職員は手洗い、うがいを励行している。消毒液を用いた掃除を毎日行っている		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、または定期的にそれぞれに応じた消毒等を行い、衛生管理に努めている。食材は前日に一日分の仕分けをし、冷凍・冷蔵に衛生的に保存している。また、肉類・魚類は分別し冷蔵保存している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	複合施設となっており、玄関には花壇が作られるなど配慮している。施設が2階となっているため、近隣の人々の出入りは余りない		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間はスペースや使い勝手を配慮しており、花壇に咲いた花を飾ったり、絵画、写真を飾るなど家庭的雰囲気作りに努めている		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファースートの他、畳を敷いた場所2箇所もつけており、入居者同士が好みの場所で過ごせるように努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○ 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で役割を持って毎日を過ごせるよう、掃除、食事の準備や片付け、洗濯物を干す・たたむ等、入居者と職員が一緒に行う場面を多く作っている。また、畑で育てた野菜を収穫したり、ベランダのプランターに花を植えたりし、成長の楽しみや喜びを感じて頂けるよう努めている。また、職員は笑顔で入居者に接し不安感を無くすように努めている。